
社会福祉法人 恩賜財団 済生会横浜市東部病院 医療 DX 導入事例

病院機能：高度急性期病院

病床数：562 床

看護部長：渡邊輝子

病院概要：

横浜市東部地域の中核病院として、急性期医療を中心に幅広い診療を提供しています。救急医療に力を入れており、24時間体制での救急対応を実施。教育・研修機能も備え、医療人材の育成にも注力しています。

訪問日：2025.11.28



医療 DX 導入の背景

コロナ禍の補助金で院内 Wi-Fi を全体整備し、オンライン面会や業務アプリ運用の基盤を確保していました。さらに、ナースコール更新を契機に院内 DX を推進するため、推進室を設立し、コミュニケーション効率化・業務連携強化目的で、スマートフォンを活用した CareRings、LINE WORKS を導入しました。

主な DX ツール

| ツール | 主な用途 |
|----------------|---------------------------|
| LINE WORKS | 院内コミュニケーション、掲示板・DX ニュース配信 |
| CareRings | ナースコール連動、在院ステータス管理 |
| エマージェンシーコードアプリ | 災害・緊急時連絡訓練 |
| エルゼビア ナーシングスキル | 看護技術手順・動画研修 |
| Zoom | 会議・研修のオンライン実施 |
| AI 録音・文字起こしアプリ | 会議記録作成（承認済みアプリのみ） |

トライアル中のツール：

- ・インカムアプリ（外来・内視鏡・リカバリー室）
- ・ポケサポ（内視鏡説明の動画化）



運用状況

- ・ CareRings×ナースコール

出勤時ログインで在院確認ができ、連絡がしやすくなっています。ナースコールと連動

しているため、現場での迅速な患者対応を可能にしています。

・LINE WORKS 活用（医師を含む全職員が院内用 ID で登録）

1 初報連絡（欠勤・業務依頼・緊急指示）、資料共有（PDF・写真等）、外部からの遠隔指示、電話・メールの代替で到達性が向上している。部署別グループ、全職員向け一斉配信などで配信が可能であり、「返信不要」明記等で時間外の配慮をしています。

2 掲示板等で、DX ニュース配信や、褒め活「グッジョブ通信」感謝投稿を月次でまとめ配信も行っています。

・インカム（トライアル中）

外来・内視鏡・リカバリー室で試験運用、災害時連絡などの有効性も評価しています。

・ポケサポ（トライアル中）

タブレットを使用し、内視鏡等の説明を動画化しています。



その他の施策

・LINE で診療予約変更が可能となっています。

・後払い会計システムを導入し、待ち時間の削減を図っています。

・SNS での広報活動（Instagram、TikTok 等）を行い、病院の良さを可視化できました。

・会議は、Zoom を活用し、また、AI 文字起こし機能で議事録を作成し、効率化しています。

・教育は、エルゼビア「ナースングスキル」等を活用し、オンライン化することで参加率の向上を図っています。

メリットデメリット

| メリット | デメリット |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・連絡の迅速・確実化・遠隔業務の継続性向上・ナースコール連動による現場効率化・ハイブリッド会議で参加柔軟性 | <ul style="list-style-type: none">・時間外連絡の増加による心理的拘束感・通知過多による重要情報の埋没 |

今後の課題

・電子カルテとの連動

・医療 DX は人を置き換えるのではなく、仕事を軽くし人が本来の力を発揮するためのツールであり、試行してダメなら戻す柔軟性をもつことが大切となります。

・地域差を踏まえ、若手・デジタルネイティブを活用し適材適所で推進し、投資機会に即応できるよう準備を継続しています。

おわりに

横浜市東部病院では DX 推進室が企画・導入・教育を一手に担い、運用ガイドラインの策

定も進めるなど、組織全体で DX を推進する体制が整っていました。また、SNS にも力を入れており、スタッフ目線での病院の良さを発信することで、外部へのアピールだけでなく、自分たちのモチベーションアップにもつながり、理想的な医療 DX 推進病院だと感じました。
